

年間スケジュール

研究

4月	入学式・オリエンテーション
5月	修士論文テーマ議論
6月	
7月	
8月	修士論文中間報告
9月	
10月	
11月	修士論文中間審査
12月	
1月	
2月	修士論文提出・口頭試問
3月	修了式

工学デザインワークショップ

4月	
5月	ロジカルシンキング
6月	1泊2日合宿
7月	技術の価値化・発表
8月	
9月	
10月	技術調査・発表
11月	
12月	事業提案・発表
1月	
2月	
3月	

入試情報

毎年8月と2月に大学院工学研究科(博士前期課程)の入試を行います。
願書を提出する前に、「受験時期、研究テーマ、指導を受けたい教員」についてご相談ください。(専門分野や研究室の運営状況などに合わせて調整します)

問合せ先 mta-info@lab-ml.web.nitech.ac.jp



出願要件

大学を卒業後、一定の社会的経験を有する社会人で、昼夜間の受講が可能な者
※短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者等でも、出願前に入学資格審査(個人の学習歴や実務経験・国際的活動経験等)を行い大学卒業者と同等以上の学力があると認められた場合は受験できます。

Q&A よくあるご質問とその回答

- | | | |
|--|---|---|
| Q 出願はどのようにすれば良いのでしょうか? | Q 文系学部卒業ですが、入試を受けることは可能でしょうか? | Q 業務の関係で昼間の授業には参加できないのですが、授業は昼間のみでしょうか? |
| A 名古屋工業大学のウェブサイトに掲載されている募集要項に従って出願ください。出願期間は、8月入試の場合は7月中、2月入試の場合は1月中に締切があります。 | A 当該コースでは、幅広い分野からの人材を募集しており、過去の修了生には文系学部卒の方もいます。ただし、大学院の授業は工学に関する基礎をある程度理解していることを前提としています。 | A いいえ、例年社会人の方からの希望をある程度調査した上で、土日集中講義及び夜間に開講する授業を設けますので、それらで必要単位数を確保できます。 |

入試に関する問合せ先

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 入試課
TEL 052-735-5083 FAX 052-735-5084 Email nit.nyushi@adm.nitech.ac.jp



INNOVATION PROGRAM

名古屋工業大学大学院工学研究科工学専攻 社会人イノベーションコース

20世紀の産業は「より質よく・より安く・より迅速に」を基本的な価値観として進んできました。その結果、様々なハードウェアとソフトウェアが出揃いました。今日でもそれらを進歩させることが極めて重要なことは言うまでもありません。

しかし21世紀の産業には、それらのハード・ソフトの力を社会の問題解決に向けていかに革新的に活用するかという新たな焦点が加わりつつあります。各企業は技術力を刷新するとともに、未来を見据えた技術を可視化する方法論がますます必要になります。

名古屋工業大学大学院工学研究科工学専攻社会人イノベーションコースは、まさにこうした喫緊のニーズに答えようとする社会人向け教育プログラムです。

イノベーションのための5つの能力を育成する

- ①次世紀まで生きるビジョンを定める「想像力」
- ②ビジョンから得られる社会価値をモノ・コトづくりを通じた体験価値で具現化する「デザイン力」
- ③工学的知見に基づいて試行と改善を繰り返していく「実践力」
- ④新産業創出につながる「戦略性と企業家精神」
- ⑤多様な視点を持つ異分野の専門家による分野横断的な活動を先導し促進できる「協調性とリーダーシップ」

- ・リーダー育成
- ・イノベーター育成
- ・政策立案者育成

社会人イノベーションコースのメリット

MERIT
1

夜間講義および土日集中講義を中心に
1年間で修士号を取得できる



MERIT
2

所属する機関の課題を持ち込み、
研究テーマとして指導を受けられる



MERIT
3

技術を深め社会に貢献する本質的な
考え方・思考技術を習得できる

短期間で修士号を取得できる
高密度な教育体制



多様な専門分野の教員とともに
発表スキルや発想法を習得



一般学生との共学環境



本コースは、厚生労働省の教育訓練給付金制度（専門実践教育訓練給付）に認定されており、一定の条件を満たした場合、最大56万円の給付が受けられ、入学金と授業料の実質的負担は約半分以下となります。 https://mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/junzaikaihatsu/kyouiku.html
また、本コースは文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP）の認定も受けています。 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/bp/

授業科目

共通科目／技術系ベンチャー構築論、イノベーション人材論など

専門科目／経営管理特論、品質管理特論、マーケティング特論、技術戦略特論、戦略原理特論、イノベーション特論
工学デザインワークショップ、技術プレゼンテーション、メディア情報システム特論

工学デザインワークショップ

技術の可視化に関する方法論をグループワークを通じて徹底的に学びます。さらに社会人学生と様々な分野の一般学生・教員が1つのグループをつくり、社会人学生の研究テーマを課題に議論します。これにより、方法論を学ぶだけでなく、自身の研究における問題設定の妥当性や解決方法の実現可能性について様々な視点から検討することができ、実践的な知見が得られます。

- ・自身の研究テーマを深掘するためのロジカルシンキング（ピラミッド法、イシューツリー）
 - ・事業提案に向けて可能性を探るための手法（バリューブリッジ）
- ほか、観察（エスノグラフィ）、技術調査、バックキャストिंग、ビジョン作成、ファシリテーション、デザインスケッチ等

修了生の声



積み重ねてきた 自分の経験を伝えたい

水野 治喜 氏（2017年3月修了）

（株）東海理化を退職後、JICA専門家として
エチオピアに派遣

自分が会社で経験してきた知識を退職後に海外で伝える仕事をするために進学しました。まさに多様性の集まりのような環境で、指導される先生方のジャンルも多岐にわたり、コースの仲間も様々な背景を持っていました。授業の単位は土日に開催される集中講義を積極的に受講しました。コース修了後、海外に派遣され現地の大学院生の指導をした際には、ロジカルに考えることやテーマ設定の仕方、問題解決の手法など、このコースでの経験が大変役に立ちました。



自分の進学で 「社則」が変わりました

則竹 登志恵 氏（2018年3月修了）

玉野総合コンサルタント（株）

これまで大学院への進学は会社からの推薦枠のみでしたが、自分で見つけて受験した最初の社員となり、自主的な入学も可とする社則に変更してもらい「会社に認められた状態」で研究に取り組める体制を作ってもらいました。また、単位互換制度を活用して名古屋大学の授業を受講した経験も印象に残っています。このコースで得た人脈は仕事でも生きており、今は博士後期課程に進学して研究内容をさらに掘り下げています。



研究成果を新商品開発に つなげる

藤田 英尚 氏（2018年3月修了）

ブラザー工業（株）

会社に勤めながらも修士を取ることができると社内の先輩から紹介を受け、進学を決断しました。会社生活ではおそらく出会うことのなかった人しかいない環境はすごく刺激的でした。自社のレーザープリンタについて次のスペック開発を研究テーマに設定し、品質工学という確立された手法に基づいて研究を進め、その成果を商品開発に活かすことができました。



経営と工学を体系的に学ぶ

八角 秀 氏（2019年3月修了）

（株）ニュースダイジェスト社

経済学部出身で工作機械に関する出版社で働いており、工学の知識を体系的に学ぶために進学しました。研究を形にするという点では1年間は短かったが、これまで経験したことがないくらい濃密な時間を過ごしたと思うと長かったようにも感じます。いろんなバックグラウンドを持つ人と議論した経験から、仕事で部下に指示する際にも、自分にとって当たり前だと思うことをわかりやすく客観的に説明するようになりました。